

## 平成 27 年度 第 4 回 伊勢市地域自立支援協議会 会議録要旨

開催日時 平成 27 年 11 月 19 日 (木) 午後 19 時 00 分～  
開催場所 伊勢市役所東庁舎 4-2 会議室  
出席委員 浦田宗昭委員、中井眞知子委員、山本とみ委員、岡部浩美委員、丸谷紀子委員、  
前村裕司委員、松崎まみ委員、斉藤茂委員  
事務局 高齢・障がい福祉課 課長、係長、他 1 名  
こども課 (こども家庭相談センター) 1 名  
学校教育課 1 名  
伊勢市障害者総合相談支援センター フクシア職員 2 名  
傍聴者 3 名

### 1. 各課題別検討チーム会議報告

#### ●いきいきチーム

##### 「職場実習制度の創設」

- ・川崎市の「3daysチャレンジかわさき」を参考に、創設する実習制度の検討を行った。「3daysチャレンジかわさき」は、3 日間の短期実習制度、利用対象者は就労系障害福祉サービス利用者、実習受け入れ企業を一般へ広く公表する等しながら、次の本格実習につなげていく入口の実習となっている。
- ・上記を基本に、実習受入れの周知公表が、社会的貢献活動の取組み PR としての企業メリット、市民への周知啓発等につながるように等意図しながら制度設計しつつ、まず試行を行っていく予定。

##### 「就労版パーソナルカルテ」

- ・上記実習制度の試行の際に、この就労版パーソナルカルテを試行的に利用しながら企業等に情報提供していただけるように検討していく予定。

##### 「就労継続B型事業の利用にかかる就労アセスメントについての特例」

##### (個別ケース検討会議課題報告・提案書より)

- ・就労アセスメントを経過する事が明らかに合わない方々がいるとの確認を行い、原則外対応の場合のその他アセスメントの活用検討や対象者像の検討や、原則外対応を圏域統一する必要性等を今後検討予定。

#### ●せいかつチーム

##### 「地域移行」

- ・入所施設等利用中の方々の中に、本人も地域移行したい、支援者も地域移行可能と思われる方が一定程度いるという県の調査結果や、地域での自立生活を体験できる県委託事業の内容等を確認。
- ・地域移行への課題として、本人が地域生活をイメージ出来るための支援や、当事者同士の交流、家族の不安等への支援、入所施設との支援の連携の促進等が考えられること等を確認。
- ・上記のような課題への支援や資源・連携について支援者が具体的に理解・説明出来るツール(見える化)を、モデルケースをもとに検討していく予定。

##### 「敷居の低い相談先 + 居場所」

- ・まずフリースペースについて、あるべき姿や、求められる資源や機能を検討していく予定。

##### 「就労継続B型事業の利用にかかる就労アセスメントについての特例」

##### (個別ケース検討会議課題報告・提案書より)

- ・B 型以外の通所先がないために B 型を選択せざるを得ないという現状があるのではないかという点について、

市内の生活介護事業の内容に幅や選択肢が出来るような提案を検討していく予定。

## ●していますかチーム

### 「相談窓口周知を図るために必要な取り組みの分析・検討」

- ・障害福祉計画アンケート結果の分析を行い、障がい者相談支援等に繋がって頂くために必要な事を検討。  
ご本人が繋がっている病院等と障がい者相談支援等が繋がる必要があると考えられることから、相談経路の調査を間接的に行い、周知を図ったり連携を深めるべき機関等を明らかにしていく予定。

### 「相談窓口チラシ作成」

- ・各委託相談支援センターがすべて掲載されているチラシを作成するための、必要な記載項目・内容を検討。  
各相談支援センターの担当地域を地図上で色分けしたり、町名から担当センターを検索出来たり、視覚的に分かり易くなるようなものを作成していく予定。

### 「市民との意見交換会」

- ・障がいのある方の災害時の支援をテーマに講演会を行う中で、参加者と意見交換会を行う予定。

## ●こどもチーム

保護者の方々と、こども総合支援室やパーソナルカルテ等についての情報・意見交換会を行った。

### 「こども総合支援室」

- ・総合支援室については、スタートをスムーズにさせるためにも今から出来ることを行ってほしい、学校からの相談も受けられるように発達支援アドバイザー研修に教員を派遣してほしい、どの学校でも相談にのれる体制を作ってもらいたい等々を確認させていただいた。

### 「パーソナルカルテ」

- ・パーソナルカルテについては、親が苦勞して記入しても学校全体には浸透していない現状がある、学校先生の理解や意識が向上する仕組みが必要である、記入書式も他市を参考に修正してほしい等々を確認させていただいた。

### 「チームからの本会報告」

- ・こどもチームの議論をしっかりと本会に報告出来るよう、チーム委員が本会報告をしてほしい。

上記意見に加え、今後こどもチームにて行う名張市の総合支援室の視察結果も合わせて、提案内容を検討していく予定。

## 【各委員の意見】

### 「実習制度創設」(いきいきチーム)

- ・利用対象者の就労系障害福祉サービス利用者とは？  
〔事務局〕現状は、就労移行、就労継続支援 B 型等の利用者を想定している。

### 「地域移行」(せいかつチーム)

- ・地域移行には、入所施設の理解だけでなく、グループホーム等の資源がないのが実情ではないか。障害特性に応じたグループホーム等が必要である。

〔事務局〕市内のグループホームに空きはほとんどなく、障害福祉計画でも重点取り組みにあげている。民間からの参入しやすさを図ったり、伊勢市高齢者用施設を障がい者用グループホームに転用し開設に至っている状況。

- ・グループホームは、消防法の規制等により開設しにくくなっており、これらについては県へも挙げていくべき話であろう。良い工夫や方法をセミナー等にて知ってもらうことが大事ではないか。

- ・地域移行をすれば施設側にも上手く進むメリット等の仕組みも必要ではないか。検討チームでも、施設の意見を拾えると良い。
- ・グループホームを作ろうとすると予算等課題が出てくるが、もっとシンプルに一人暮らしにヘルパー等が入る形のアパートという事で、必要な部分をフォローする等、地域皆で支えていけないか。
- ・大きな課題であるので、本当の課題はどこなのかと調査等にて深く考え糸口を見つけていく必要があるのではないか。

#### 「敷居の低い相談先 + 居場所」

- ・手帳等持っていない方等は、まずは障害福祉サービスではなく、サポステ等に相談に来る場合が多いため、連携を図っていく必要がある。

#### 「就労継続B型事業の利用にかかる就労アセスメントについての特例」(せいかつチーム)

- ・伊勢市の生活介護は重度化し過ぎているという点についてはどうということか？  
〔事務局〕就労支援であるB型と、重度の方中心の生活介護という選択肢であり、その間を埋める資源が無いのではないかという議論。  
⇒議論を引き続き進めてもらいたい。
- ・選択肢を紹介するために、パンフレットの活用や見学などをして頂くと良い。

#### 「相談窓口チラシ作成」(していますかチーム)

- ・作成後の配布方法として、サービスに繋がっていない方に見てもらいやすいために、伊勢市広報に挟んだり、新聞折込チラシにしたり、SNS(インターネット関係)等の利用が良いのではないか。
- ・配布にかかる予算は、本会を通しての提案等をしていきたい。

#### 「パーソナルカルテ」(こどもチーム)

- ・開始後1年半くらい経過しているが、浸透状況はどうか？  
〔事務局〕昨年度100部弱配布、今年度はおおぞら児童園での勉強会等もあり約50部配布。実際の場面での有効活用については、これからの課題である。
- ・パーソナルカルテでの他市の成功事例は無いのか？  
〔事務局〕いなべ市は、就学期と青年期に別れており、また支援が必要な方は必ず学校等に見せる事となっている。津市は、ハピネスカルテとして、プラス方向に知ってもらうためのものとして活用しており、配布時には必ず面談にて説明等をしている。今後も他市の具体定な使い方等の情報収集をしていきたい。
- ・使って良かったという経験が無いとなかなか広がらない。親同士の仲間で集まり、どう書くとよいのか等、一緒に作るという機会が良いと思われる。
- ・親の視点からだけでなく学校の先生等と共有し、母はこう見ているけど先生はこう見ている等のやり取りをするためのコミュニケーションツールにもなる。
- ・記入をしようとするのが、親が自分のこどもを客観的に見れる機会になる。

#### 「こども総合支援室」(こどもチーム)

- ・悩みぬいてからの相談や支援ではなく、寄り添いの支援の中で、もっと早くから適切に短期的な施設入所支援を利用し、地域生活に戻って頂くという流れを、どうにかして作っていけないか。
- ・上記は、教育、生活困窮等々さまざまな部署との連携が必要ということであり、総合支援室の必要性につながる話である。家庭環境が複雑な方の支援は、様々な角度から見ていく事が必要である。  
〔事務局〕生涯に渡って途切れない支援をしていくための総合支援室であるが、そこだけで出来るのではなく他機関との連携が必須であり、連携をしながら作り上げていくのが課題である。
- ・今回の情報交換会の報告で、大きな課題をもらったと思っている。

- ・現状のこども家庭相談センターは、アドバイザー1名、児童虐待、発達支援、女性相談の各機能があるが、複雑な家庭環境等がある中で、家庭だけでないこどもの社会での育ちという面から、課題は共通しているように思われる状況。
- ・小さい頃から適切な支援を受けられると、将来生活しやすくなる等々、全国の研究等を参考にして頂きたい。

#### 「チームからの本会報告」(こどもチーム)

- ・こどもチームでの意見からもあったように、各チームからの報告・提案が紙ベースでは本会に伝わりにくい部分もあるため、必要時には各チームが直接本会に来て伝えて頂くということについて了承でよいか？  
⇒了承。

#### 「市民との意見交換」(各チーム)

##### 【各委員の意見】

- ・毎年年度末に行っている自立支援協議会全体報告会と、各チームの意見交換会との関連を検討していく必要がある。合同形式として、基調講演後、それぞれ各チームにて分科会として、個別テーマを話し合う等も方法である。次回本会において検討していきたい。

## 2. 検討事項

### ●しっていますかチーム

#### 「啓発(障害福祉サービス事業所等の情報提供)」

- ・障害福祉サービス等事業所の詳細情報を市民に情報提供を行っていくために、自立支援協議会名で各サービス事業所に詳細情報の記入依頼を行っていくことについて検討頂きたい。

##### 【各委員の意見】

- ・サービス事業所詳細情報の公表化、および事業所への記入依頼をしていく事について、了承。
- ・各サービス事業所詳細情報を掲載する書式については、会長一任とし、事務局とで決定頂く。

## 3. その他

### ●第4期伊勢市障害福祉計画の進捗状況の報告(H27年度10月末時点)

#### 重度の障がいのある方が利用できる生活介護や短期入所サービスの体制整備・拡充

- ・特定非営利活動法人暖家の生活介護(定員30名)、計画相談支援事業所がH28.4開設予定
- ・伊勢市重度身体障害者デイサービスセンターにて、日中一時支援事業実施を導入、定員は5名拡充予定も総合的な判断にて現状のままとなった。
- ・高齢者用二見デイサービスセンターを、障がいのある方の生活介護、短期入所事業所への用途変更予定。

#### グループホームの整備

- ・高齢者用おばたグループホームを、H27年10月から障がいのある方用のグループホームきれい みや川として開設(社会福祉法人伊勢亀鈴会)

#### すべての障害福祉サービス等利用者への計画相談支援事業の実施

- ・進捗率61%余り(H27年9月末時点)。今後も新たな事業所開設予定あり。

#### 居宅介護サービスの量と質の充実

- ・伊勢市介護保険サービス事業者連絡会で、新規参入へ向けた周知予定。
- ・フクシアにて、障害別研修を実施。
- ・伊勢志摩圏域自立支援連絡協議会相談部にて研修会予定。

#### 重度訪問介護、行動援護のサービス提供

- ・伊勢市介護保険サービス事業者連絡会で、新規参入へ向けた周知予定。

#### 就労移行(定着)支援の促進

- ・福祉施設から一般就労への流れの確立に向けて、伊勢市地域自立支援協議会いきいきチームにて検討中。
- ・市長が、特別支援学校や企業、福祉施設、商工会を訪問実施。
- ・障がい者雇用促進シンポジウム(12月5日)実施予定。
- ・就労移行支援事業所に対して好事例収集や、商工会への周知を予定。

#### 就労継続支援事業所における工賃アップ

- ・優先調達推進法における障害者就労施設等からの物品等の調達方針にて、調達目標額 473 万円に対し、現時点にて約 520 万円。
- ・水道メーターの分解作業を、社会福祉協議会の就労支援施設に委託。

#### 介護保険事業所による障害福祉サービス(生活介護・短期入所)の提供

- ・H27年9月に、基準該当生活介護の登録が1事業所あった。
- ・伊勢市介護保険サービス事業者連絡会で、新規参入へ向けた周知予定。

#### 利用者が自ら施設を選べる情報提供の推進

- ・相談窓口の周知チラシや、サービス事業所の詳細一覧の作成を、伊勢市地域自立支援協議会しつていませいかチームにて検討中。

#### 民間事業者によるグループホームの整備促進

- ・各事業所へ情報提供を実施した。
- ・H27年度は、グループホーム整備事業の補助金申請無し。

#### 施設入所待機者の状況把握と入所調整

- ・伊勢志摩圏域自立支援連絡協議会にて、情報共有を行い、地域生活継続の可能性を検討していく。

#### 計画相談支援等の内容や利用方法の周知

- ・サービス申請書送付時等に、チラシを同封し、窓口で説明を実施。
- ・特別支援学校在校生への計画相談導入の流れを伊勢市相談支援ネットワーク会議で検討していく。

#### 計画相談支援等の体制整備

- ・計画相談支援事業所から地域のニーズを記載する方法を確立し、ニーズ把握を行っている。
- ・相談支援専門員の確保に向け、H27年度は、相談支援従事者初任者研修を18人が終了。
- ・伊勢市介護保険サービス事業者連絡会で、新規参入へ向けた周知予定。

#### 地域移行・定着支援の充実

- ・伊勢市地域自立支援協議会せいかつチームにて、今後の取り組み等を関係者と共有していけるような見える化を検討中。

### **【各委員の意見】**

#### きれい宮川グループホーム

利用者の障害種別は？重度の身体の方は利用されているか？

[事務局]7名の方が利用中であり、知的障がいや精神障がいをお持ちの方、入所施設等からの地域移行の方2名等であり、必要性・緊急性が高い方の利用になっている。バリアフリー環境なので、身体障がいをお持ちの方も利用可能であり、事業所に伝えながら努力していきたい。

#### 来年度開設予定の生活介護

どのような障がいの方々の利用が中心になるのか？

〔事務局〕暖家は重度の知的障がいをお持ちの方を中心とされている法人であり、また伊勢市にはその部分の資源が少ないという事もあるので、重度の知的障がいをお持ちの方々が中心になると思われる。

#### 二見老人デイサービスから転用される障がい者用ショートステイ

- ・利用対象者はどのような方か？
- ・現状のショートステイの状況から、重度のこどもの方も受けて頂けるようにしてもらいたい。

〔事務局〕事業内容は、今後自立支援協議会等でも研究して頂きながら検討していきたいが、重度の方も受けて頂ける所が増えると良い。こどもか成人かもまだ検討中である。

また、民間譲渡であるため採算ベースではなく、市の抱えている本来ニーズに対応頂けるように考えている。

⇒これら上記の進捗状況は、また来年度に協議会でも確認していきたい。

#### ●差別解消法における伊勢市職員対応要領の策定にかかる事例募集

- ・差別解消法における市の職員の対応等を定める対応要領の策定は、市については努力義務ではあるが、伊勢市は策定をしていく方向。その策定のためには、事例を把握していくことが重要であるため、市民から事例募集を行う。12月1日号の伊勢市広報やホームページでも周知を行い、12月中の募集(その後も事例は継続的に募集)とする予定。
- ・市の対応要領の素案が出来てきたら、団体、関係機関に意見を伺う予定としている。

#### ●シンポジウム等の紹介

##### 伊勢市障害者雇用促進シンポジウム(12月5日)

- ・自立支援協議会も共催になって頂いており、また課題別チーム委員もパネリストになっている。
- ・自立支援協議会委員の方々の参加や周知協力等もお願いしたい。

##### 三重県障がい者芸術文化祭

- ・12月19日(土)・20日(日) いせトピアにて開催予定。